

皮膚表面の異常に気づいたら 「外皮のゲートキーパー」に相談を



医療法人社団 道
大通いべ皮膚科
理事長・院長
伊部昌樹

ちょっとした肌の悩みやトラブルから、湿疹、かゆみ、切り傷、外傷まで、皮膚表面の異常に気づいたら、「外皮のゲートキーパー（門番）」である皮膚科医にご相談ください。皮膚に現れる異常は、糖尿病をはじめ、虚血性潰瘍、神経疾患や代謝疾患、痛風など全身疾患のはじまりであることも。専門の治療が必要である場合は、他医療機関への橋渡し役も担います。自己診断せず、早めに受診するよう心がけましょう。

高齢者の中には、自身の足先まで手が届かない、きちんと足を洗えない、爪を切れないなど、清潔に保つことが難しい方もいらっしゃいます。視力の低下、皮膚感覚の衰えもあって、足裏のひび、かさつき、たこ、うおのめなどに気付かない場合も多く、放置していると細菌感染の一因になってしまいます。こうした方に対しても当院では、爪切りをはじめ、しっかりとした丁寧な足のスキンケアに対応しています。

併せて、当院は足裏などのホクロの健康診断も受け付けています。日本人において手先、足先は、皮膚がんの1つである悪性黒色腫（メラノーマ）が多く発生する部位です。倍率10倍の拡大スコープで簡単に診断できますので、お気軽に相談してもらえればよいでしょう。